



パソコンのお手入れ&大掃除



PDF文書で見る(ココをクリック)・・・437KB・・・印刷できます
PDF文書とは？

続・パソコンのお手入れ 2009/2/21 朝日新聞よりスクラップ

パソコンは毎日使う精密機械。その分、汚れを気にする人も多いようです。昨年の本欄で最も読まれたテーマの一つが「パソコンの掃除の仕方」でした。今回は、前回の記事とはまた違った掃除法をご紹介します。掃除の前には電源を切るのが鉄則ですが、ウィンドウズ・ビスタの場合は素直に切れてくれません。そうした知識もあわせ、パソコンの掃除法をまとめてみました。

■シャットダウンを確実に

掃除を始める前に、電源を確実に切りましょう。ウィンドウズXPでは、画面左下のスタートボタンから「シャットダウン」を選択、次に表れた画面で「シャットダウン」または「電源を切る」を選びます。

パソコンをていねいに掃除する

まずは確実にシャットダウンしよう

ビスタのシャットダウンは次の操作で



●液晶画面の掃除



ビスタでは、左下のスタートボタンをクリックして表れるメニューの右下に右向き三角形「△」があるので、これにマウスポインタを合わせます。表れた項目の中から「シャットダウン」をクリックします(図)。

ビスタの通常の電源を切るメニューは、シャットダウンではなくスタンバイ(一時停止)。実行中のプログラムなどをメモリーに記憶し、次に電源を入れたとき同じ内容に戻します。その間、メモリーには微弱な電流が流れ続けています。確実に電源を切るには、「△」から「シャットダウン」と覚えておきましょう。

パソコンで最も手に触れるのはキーボード。キーの間にほこりやゴミが落ちていないでしょうか。今回は空気噴射スプレーで吹き飛ばす方法などを紹介しましたが、デスクトップパソコンのキーボードや、重さが1キロ前後の軽いモバイルノートパソコンなどは、キーボードをひっくり返して軽く揺るのが簡単です。

●キーボードの掃除



●本体のほこり取り



いずれも電源は確実にシャットダウンします。デスクトップパソコンのキーボードはパソコンから外します。モバイルノートはバッテリーを抜いて画面をできるだけ開き、ひっくり返します。つい、たたいたり激しく揺らしたりしたくなりますが、大きな衝撃は禁物です。

大きめのノートパソコンは、ふつう重量が3キロ以上と重いため、無理をせずブラシをつけた掃除機で表面を軽く吸い取りましょう。

次は手の脂などの汚れ。かたく絞ったタオルなどで軽くふきましょう。一度で落ちなければ、ていねいに繰り返しふきましょう。

■熱や電源に十分注意を

液晶画面は非常にデリケートで、操作のために触れるタッチパネルなどを除けば、簡単に傷がつきます。まずカメラ用ブローアールや空気噴射スプレーなどでほこりを吹き飛ばします。次にこびりついた汚れの取り方として、今回は水ぶきの仕方をご紹介します。メガネやカメラのレンズふき用の布がおすすめで、2枚用意します。1枚はぬるま湯などに浸し、きつく絞ってから画面をふきます。一度で済まそうとせず、繰り返しゆすいでゆっくり落とします。最後にもう1枚の方でからぶきします。

次はパソコン本体。一番気を付けなければいけないのがほこりです。パソコンには発熱する部品が多く使われていて、ほこりで空気がうまく流れないと、内部が熱くなって故障することがあります。

デスクトップパソコンの背面は、ほこりがたまりやすいもの。ケーブルを外し、広い場所でハケなどを使って落とします。掃除機にブラシをつけて吸い取れば簡単ですが、ハケやブラシの毛がケーブル接続部のすき間などに挟まらないよう注意してください。こびりついた汚れは、やはりかたく絞った柔らかい布でふきます。

きれいになったパソコン。使わないときに布をかけておきたいという人は多くいますが、排熱を妨げかねません。とりわけスタンバイ状態で布をかけるのは禁物。ビスタでは特に注意してください。

デスクトップパソコンのディスプレイに布をかけたい場合は、ディスプレイの電源を確実に切り、十分冷めたのを確認します。長期間使わない場合はコンセントも抜きましょう。バッテリーを内蔵した一体型パソコンやノートパソコンの場合は、かけない方が無難です。(ライター 猪狩友則)

グラフィック: なかのりか

仕事に勉強に、毎日パソコンを使う人も多いでしょう。夏休みを利用して大掃除をしてみても？「キーボードはトイレより不潔」なんていう英国発の話もありました。この際、ハードもソフトもびかびかにして、すっきりと秋を迎えましょう。

パソコンの中も外もきれいに Let's cleaning!!

本体や部品の掃除

ディスプレイ
不織布などで汚れをふく
週に1~2回

キーボード
ホコリを取り、乾いた布や綿棒で汚れを丁寧に取る
週に1~2回

マウス
光学式は裏面をふく
2~3カ月に1回

ホコリ、手あか、食べこぼし、ゴミ

パソコンの「掃除」では、内側と外側、つまり本体やマウスなどの部品と、パソコン内のファイルの整理整頓の二つをしましょう。All About「パソコンスキルアップ」ガイドの石渡真澄さんの指導で、まずは外側から始めます。このとき、電源は必ず落としてください。

■ハード・ソフトびかびかに

まずはキーボードです。英国の消費者情報誌によると、ものを食べながら使ったり、手を洗わずに使ったりするため、大腸菌や黄色ブドウ球菌が見つかったそうです。パソコンは基本的に水気は厳禁です。乾いた布(メガネふきや不織布)で表面の汚れをふき取ります。キーの間にたまったほこりや食べかすは、ハタキや専用ブラシをかけるか、空気噴射スプレーで吹き飛ばします。

次はディスプレイです。こちら指紋やホコリがついています。専用ブラシで表面のホコリをふくか、不織布や専用のウェットティッシュでやさしく画面をふきます。ディスプレイとキーボードは週に1~2回は掃除しましょう。

マウスの掃除の仕方は「ボール式」と「光学式」で異なります。光学式は裏面をきれいにふく程度でいいのですが、ボール式は内部のローラーやボールにゴミがたまりと動かなくなることがあります。ふたを取り、取り出したボールや中のローラーをふきます。石渡さんのお勧めはエタノールをふくませた綿棒を使うこと。マウスは2~3カ月に1回は掃除しましょう。

電子的な掃除

←空き容量を確認
マイコンピュータ
↓
ローカルディスクを右クリック
↓
プロパティ

←デフラグ(最適化)
スタートボタン
↓
プログラム
↓
アクセサリ
↓
システムツール
↓
ディスクデフラグ

グラフィック-なかのりか

けると小さな部品を誤って吸い込むのを防げます」(石渡さん)

そして本体です。デスクトップ型のパソコンなら本体を開けられます。中央演算処理装置(CPU)や本体内の熱を冷ますファンはホコリがたまると熱を帯びやすく、故障の原因になりやすいのです。開閉方法をマニュアルでよく確認した上で、電源をオフにするだけでなく、コードも抜いてください。掃除機の吸引力を「弱」にして、少し離してホコリを吸い込むといいでしょう。「掃除機の先端にストッキングをつ

■いらぬファイルを削除

大切なのが「電子的」な掃除です。汚れをとるといって、整理整頓に近いですね。まず空き領域を確認し、容量が少なかったら、要らないファイルやフォルダを削除しましょう。

マイコンピュータ→ローカルディスクを右クリック→プロパティを開くと円グラフで表示されます。空き領域が少ないと起動が遅くなったり、エラーメッセージが表示されたりするので、2~3カ月おきにチェックして不要なものを削除します。

デスクトップ上のショートカットで使用頻度の低いものは消してもいいでしょう。ごみ箱に移し、ごみ箱を空にすれば削除は完了です。

使っていないプログラムも、コントロールパネルの「プログラムの追加と削除」から削除しましょう。そのプログラムのCDを持っていれば、いつでもインストールできます。

次に「ディスククリーンアップ」をしましょう。スタートボタン→プログラム→アクセサリ→システムツールで呼び出します。過去に見たウェブの履歴やほとんど使っていないファイルなど、不要なファイルを探し出し、その容量を一覧表示してくれます。そこで「一時ファイル」や「temporary internet files」にチェックを入れ、「OK」を押すと一括で削除されます。

最後に「デフラグ」です。ハードディスク上に細分化されて書き込まれたファイルをまとめて連続した空き領域を増やしてくれる機能です。整理しておくと、特定のファイルを開くときも探していく時間が短縮でき、起動操作などが速くなります。

注意点として、こうした電子的な掃除をするときはウイルス対策ソフトやスクリーンセーバーなどの自動設定を解除しておきましょう。(後藤絵里)

パソコンの大掃除・XP版

HDをすっきりさせる

大掃除の時期、ついでにパソコン内も、という方もいるでしょう。ハードディスク(HD)内の不要なデータファイルやプログラムファイルを削除すれば、容量も増やせます。昨年12月21日号(「be」ホームページのバックナンバー参照)で、ウィンドウズ98の場合を探りましたが、今回は、すいぶん楽になったXPでの方法です。(斎藤勉)

パソコン内には、知らぬ間に削除で空く領域を自動的にいろいろなファイルが勝手にできてくるもの。たとえば、いろいろなホームページを見ているだけで、そこに使われている画像など、意外に多くのファイルをHDにためこんでいます。

「ゴミ」候補リスト

そんな不要ファイルの削除はいたって簡単。「スタート」▼「すべてのプログラム」▼「アクセサリ」▼「システムツール」▼「ディスククリーンアップ」とたどると、STEP1の画面が登場

「ゴミ」候補リストを削除して構わないものなら、左側のボックス内にチェックを入れ、下の「OK」をクリック。現れた確認画面で「はい(Y)」を押すと、2で削除作業が始まります。

2の「詳細オプション」のタブをクリックすると、4は、チェック済みのものは

し、削除で空く領域を自動的に計算します。しほらくして、2の画面が「ダウンロードされたプログラムファイル」「一時ファイル」など、削除できるファイルリストアップしてくれま

す。「ゴミ」候補のファイルに「Windowsコンポーネント」の「クリーンアップ(L)」を押すと、3の画面になり、この中から、不要なコンポーネントを選んで削除することが出来ます。これらは、XPに標準で付属するソフトで、閲覧用のインターネット・エクスプローラー、メール用のアウトLOOK・エクスプレスなどが含まれます。削除といっても、実際は、使われないものを「外す」だけ。必要になれば、また組み込みます。

ただ、ここでの手続きでは、チェック済みのものはすでに組み込まれているもので、削除したいものを指定する際には、そのチェックを外す作業になります。ご注意ください。

次に、4の中段にある「インストールされているプログラム」で、「クリーンアップ(E)」をクリックすると、3になります。

よく考えて削除
日ごろ使わず、不要と思うプログラムをここで削除できます。リストアップされたものをクリックすると、多くのものは、そのサイズ、使用頻度を、最終使用日がわかりま

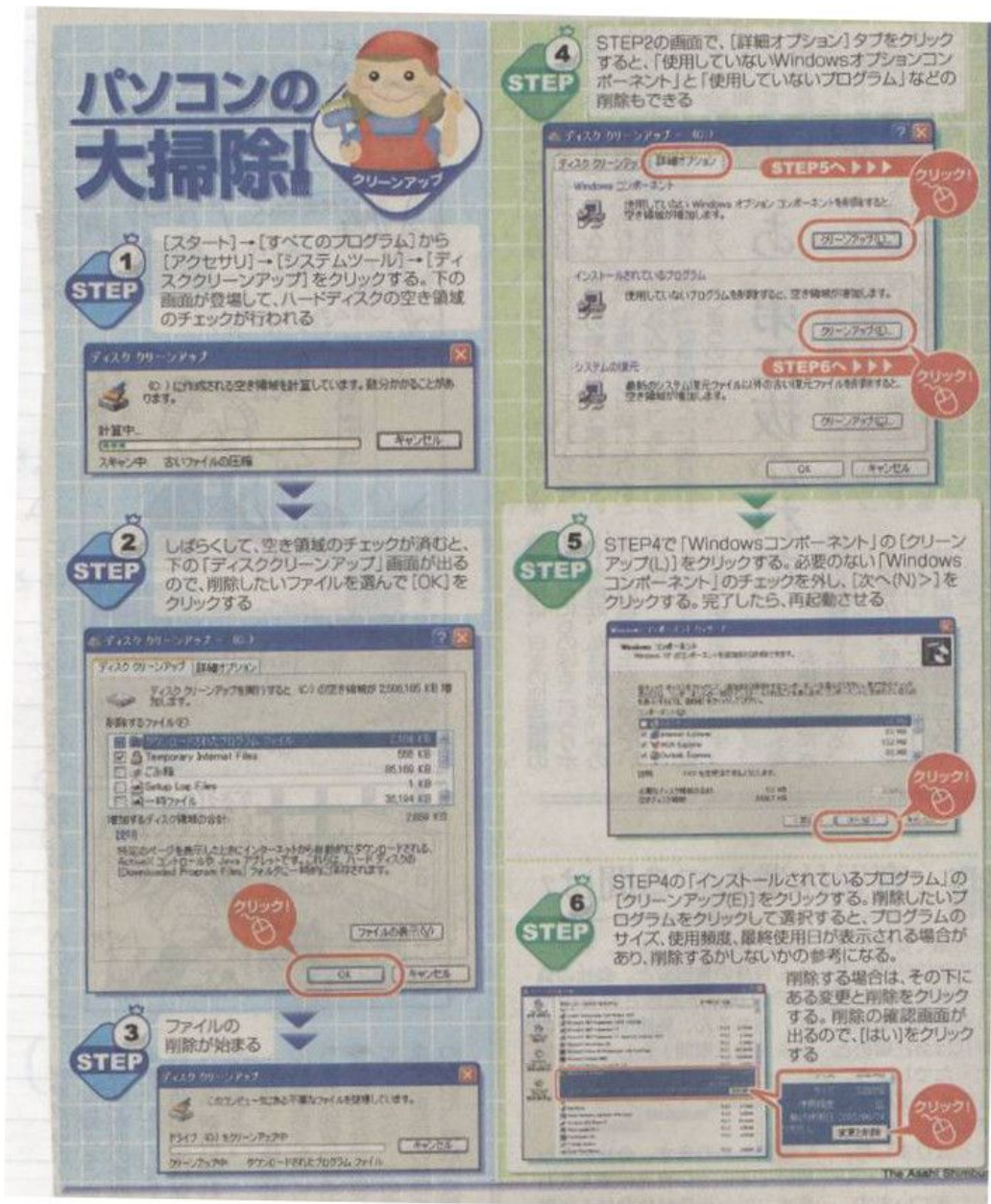
す。使用頻度が「低」で最終使用日が数年も前、といった場合には、不要と判断できるかも知れません。

ただ、ここで削除したプログラムはハードディスクからなくなりません。示された情報などを参考に、よく考えて、実行しましょう。

このほか、「システムの復元」のためにバックアップファイルを作成している方は、4の下の「システムの復元」の「クリーンアップ(C)」をクリックし、最新の復元ファイル以外の、不要になっている古い復元ファイルを削除しましょう。



中級★★☆




注) PDF文書とは
パソコンなどであつかう電子文書は「ワード」「一太郎」「エクセル」
など、文書作成ソフトで作成しますが、これらの文書を他のパソコン
で閲覧しようとすると、元の文書を作成したソフトが必要です。
もし、元の文書を作成したソフトを持っていないと閲覧出来ません。

そこで、どのような文書作成ソフトで作成しても、印刷イメージで
電子文書化したり、閲覧したりする世界標準のソフトを介在させる事で、
どのような文書作成ソフトで作られた文書でも、閲覧を可能にした
デファクトスタンダードなソフトがアドビリーダです。

PDF文書を開くには、アドビリーダが必要です。
ほとんどの皆様のパソコンにはアドビリーダが入っていますが、
もし、PDF文書が開けない場合には、次のURLから無料で
アドビリーダが入手できます。

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>



ばそこん119 石井省三 s.141@pst2.mfnet.ne.jp

***** <http://pc119m.com/> *****